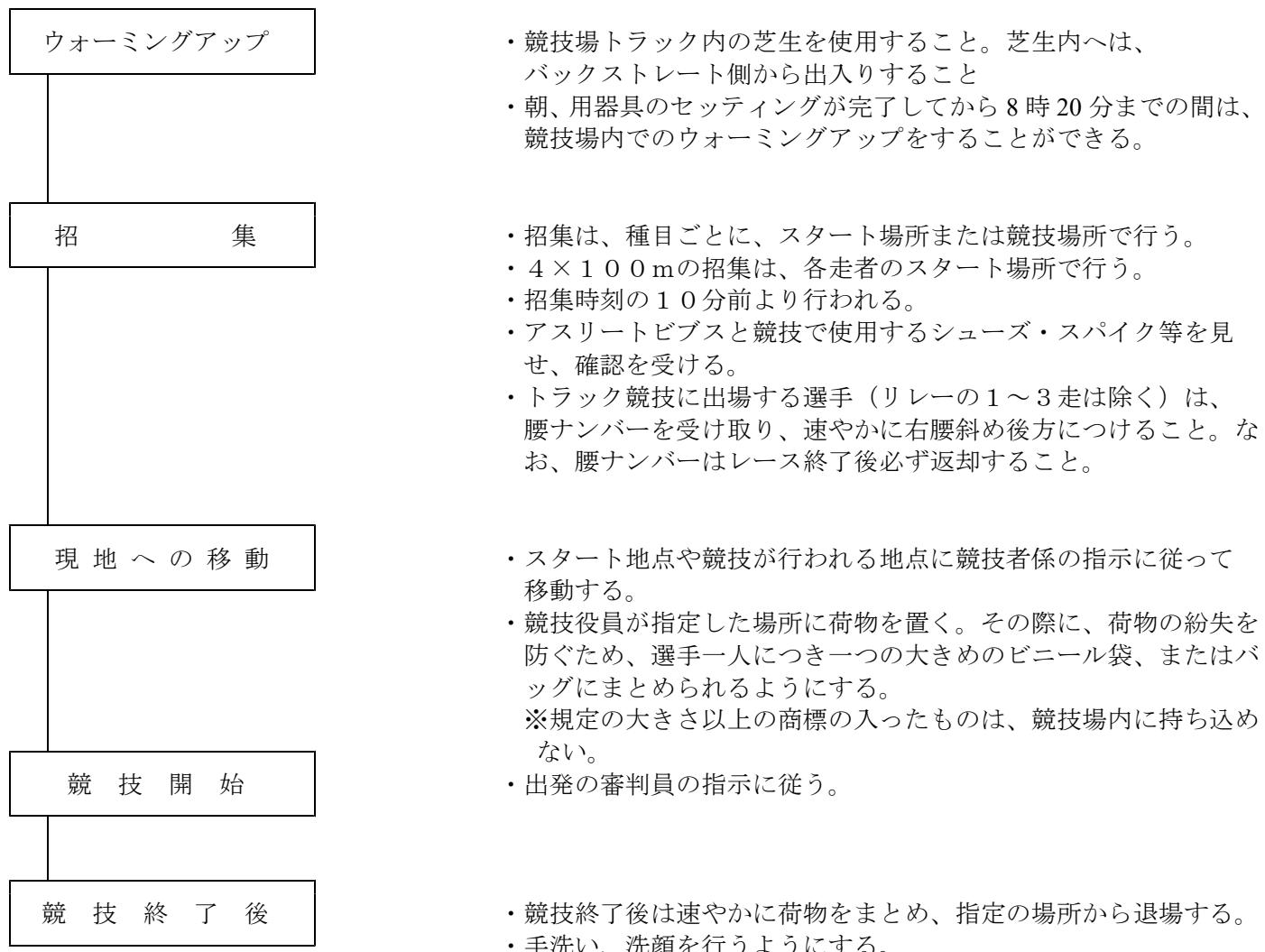


競技注意事項

1. 競技方法 2020年度日本陸上競技連盟競技規則による。
2. アスリートビブス 個人アスリートビブス（男女赤字）を胸背部につける。ただし、跳躍競技は、胸背いずれかでよい。トラック競技に出場する選手（リレーの1～3走者を除く）は全員腰ナンバー（大会本部で用意する）を右腰後方に付ける。
3. 招集 ○トラック競技は競技時刻の20分前を招集時刻とする。
○フィールド競技は、以下の通り種目によって招集時刻が異なるので注意すること。
【走高跳・走幅跳】30分前 【砲丸投】60分前 【棒高跳】100分前
○招集は種目ごとに、スタート場所または競技場所で行う。
○競技者は招集時刻の10分前までに点呼を受ける。
○招集時刻に遅れた選手は棄権とみなす。
4. 練習場 ウォーミングアップ場は、競技場トラック内の芝生のみとする。ただし、周回競技を行っていない時間に限り、バックストレートの使用を可能とする。
5. 使用器具 器具は本部で用意したものを使用すること。但し、棒高跳のポールは各自のものを使用すること。バトンも本部で用意したものを使用し、レース後ただちに係員に返すこと。
6. トラック競技 ○不正スタートをした競技者は、1回目で失格とする。
○100m、200m、400m、ハーダル競技は、上位16名による二次レースを行う。尚、二次レースを欠場する選手がいても選手の補充は行わない。
○同記録は0.001秒まで着差判定を行い、順位を決定する。
○短距離では、事故防止のためフィニッシュライン到着後、自分に割り当てられたレーン（曲走路）を走ること。
○ハーダル競技の規格は、以下の通りとする。
1年男子 100mH～高さ84.0cm 13m00～8m50～10m50 10台
2年男子 110mH～高さ91.4cm 13m72～9m14～14m02 10台
女子 100mH～高さ76.2cm 13m00～8m00～15m00 10台（1年、2年共に同じ）
○走幅跳、砲丸投はトップ8による3回の試技を追加して行う。
○選手が希望する場合には、定められたコーチングエリアから、各校の指導者や県中体連陸上部強化コーチによるコーチングを受けることができる。
7. フィールド競技 リレー競技に出場の場合、ランシャツ（ベスト）は同一ユニフォームとする。
8. ユニフォーム 男子走高跳 135 140 145 148 151 154 157 160 以後3cm
9. バーの上げ方 男子棒高跳 200 220 240 250 260 以後10cm
女子走高跳 120 125 130 133 136 139 142 以後3cm ※当日変更あり
10. スパイク 11. シューズ トランク種目・走幅跳・棒高跳は9mm以下、走高跳12mm以下とする。
靴底の最大の厚さについては、以下の通りとする。
12. その他の フィールド種目・800m未満のトランク種目 20mmまで
800m以上のトランク種目 25mmまで
○当日審判員のいない学校は、選手の出場を停止する。
○当日の選手の変更は一切認めない。
○競技する選手以外は競技場内に立ち入ることはできない。
○空き缶・ゴミ等は各校・各自で責任をもって処理する。
○応援幕およびのぼりの設置は認めない。
○競技場スタンドおよびスタンド下コンコースには、テントおよびシートの設置は認めない。必要に応じて、ヨガマット等を使用してストレッチ等を行うことはできる。
○天候が悪い場合には、スタンド下コンコース等を譲り合って使用できるようにする。
○競技が終了した選手は、速やかに競技場外へ退出し、帰宅できるようにする。
○スタンドの手すり際に立っての応援や、メインスタンドでの集団応援は禁止する。
○感染症対策として、以下の点に注意すること。
 - 競技場内では、できる限りマスクを着用すること。特に、声を出しての応援やコーチングを行う場合には、必ずマスクを着用すること。
 - スタンドや各校の控え場所などでは、ソーシャルディスタンスを保ち、対面での食事やおしゃべりを行わないこと。
 - こまめに石鹼で手を洗うこと。消毒薬等は、各自で準備することが望ましい。
○中学生は携帯電話を競技場内では原則として使用しないこと。
○トランシーバーを使用する場合、本部で使用する7・8・9・10チャンネルの使用を禁止する。

選 手 注 意 事 項

選手は以下の流れに従って動き、失格にならないように気を付けて下さい。なお、リレーに出場する選手は以下の注意事項も守って下さい。



※ リレーについて

- 招集は各走者のスタート地点において、他の種目と同様、上記の通り行う。
- オーダー用紙を 8 : 30 までに、学校受付に提出すること。その後の選手変更については、招集時刻の 1 時間前までに、学校受付を通して、審判長へ申し出ること。